

# 歴史から学ぶ「福山」

# 郷土の

きょうどのいじん

— 第6回 —

# 偉人たち



執筆 エフエムふくやま 専務取締役 局長

田中 宏行 (福山市立御幸小学校・幸千中学校出身)

皆さんが暮らす福山市には、かつて偉業を成し遂げた多くの先人がいます。しかし、今ではその名を聞くことが少なくなってしまった人たちもいます。そんな忘れられた郷土の偉人たちを紹介します。

## 開発した蓬莱米で台湾の農業を改革し、経済発展に貢献

1886年(明治19年)、福山市霞町で生まれた農学者の磯永吉は、日彰館中学校(現・広島県立日彰館高等学校)を卒業後、札幌農学校を経て、1911年(明治44年)、札幌市の東北帝国大学農科大学(現・北海道大学農学部)を卒業しました。

翌1912年(明治45年)、25歳の永吉は、台湾総督府農事試験場の技術者として日本統治下の台湾へ渡り、その後45年もの長い間、台湾米の品種改良に全身全霊を傾けて取り組みました。当時の台湾は、食糧不足の日本に米を出荷していましたが、ばさばさした食感で粘り気の少ない台湾米は日本人の口に合わず、日本国内の米の半値でしか売れませんでした。そのため永吉たちは、台湾で日本人の味覚に合う米を生産しようとして、膨大な数の人工交配実験を繰り返して、悪戦苦闘しました。

そして、ついに1927年(昭和2年)、品種改良により台湾の気候風土に適した、優れた品質

# 磯永吉

いそ えいきち (1886-1972)



写真提供:福山市 文化観光振興部 文化振興課

## 「台湾蓬莱米の父」「台湾農業の父」

その後台湾は、蓬莱米と砂糖の輸出で得られた外貨で急速に工業化が進み、奇跡的な経済発展を成し遂げました。まさに台湾農業を大改革し、経済発展の礎を築いた「台湾農業の父」にふさわしい偉業です。

また、1928年(昭和3年)に台北帝国大学(現・国立台湾大学)理農学部の助教授、2年後には教授に就任。多くの学生を指導し、有望な人材を世に多く送り出しました。

1945年(昭和20年)、日本の敗戦後、永吉は中華民国(台湾)政府の要請で台湾に残り、農林庁技術顧問として農業指導を続けました。1957年(昭和32年)、帰国に際し、中華民国から日本の文化勲章に当たる最高位の勲章を授与され、毎年1200キロもの蓬莱米を終生贈られることになりました。

また、永吉は蓬莱米だけでなく、他の農作物の研究にも力を入れ、台湾と東南アジアの農業に非常に大きな足跡を残しました。

最近では、永吉の胸像が国立台湾大学に設置され、同大学内の老朽化した永吉の研究室「磯小屋(磯永吉小屋)」の修繕費に多くの寄付が集まるなど、永吉は亡くなって50年経つ現在でも台湾の人々にとても慕われています。

※蓬莱米/日本統治下の台湾で品種改良に成功した米「蓬莱」とは、中国の伝説で東方の海上にある仙人が住む土地で「台湾」の別名でもあることから、永吉が「蓬莱米」という名を提案